

審議会等の会議結果報告

1. 会議名	令和4年度松阪市歯と口腔の健康づくり推進協議会
2. 開催日時	令和4年7月11日（月） 午後1時30分～午後2時55分
3. 開催場所	松阪市健康センターはるる3階 健康増進室
4. 出席者氏名	委員：◎長井雅彦、○萬濃正通、津田真、杉山拓紀、藤本泰史、 小山恭子、鈴木寛子、馬場啓子、西村知晃、桑山真理子、 萩野真理、廣本知律（◎会長、○副会長） アドバイザー：奥野ゆたか 事務局：金谷、坂口、竹内、大野、鈴木、中西、山村、森川、 森本、西口、白木、鈴木、大西、橋本、清水、梶間、 後藤
5. 公開及び非公開	公開
6. 傍聴者数	1名
7. 担当	松阪市健康福祉部健康づくり課 TFL 0598-20-8087 FAX 0598-26-0201 e-mail ken.div@city.matsusaka.mie.jp

事項

- 挨拶
- 委員自己紹介
- 協議事項
 - 令和3年度歯科保健事業実績報告について
 - 令和4年度歯科保健事業計画について
 - 「第2次歯と口腔の健康づくり基本計画策定」について

議事録 別紙

令和4年度松阪市歯と口腔の健康づくり推進協議会について

- 日 時: 令和4年7月11日(月) 13:30~14:55
- 場 所: 松阪市健康センターはるる3階 健康増進室
- 会議形態: 会場出席とオンライン出席の併用
- 出席者: 【委員】長井雅彦(会長)、萬濃正道(副会長:オンライン)、津田真
杉山拓紀、藤本泰史、小山恭子、鈴木寛子、馬場啓子、西村知晃
桑山真理子、萩野真理、廣本知律
- 【アドバイザー】奥野ゆたか(オンライン)
- 【事務局】
(健康づくり課)
森本亜由美、西口裕登、白木智子、鈴木奈津美、大西郁子、
橋本嘉寿子、清水尚美、梶間望、後藤優尚
(学校教育課) 金谷勝弘、坂口陽一、竹内伸吾
(こども未来課) 大野千賀子、鈴木智美、中西なつき
(障がい福祉課) 山村千穂
(高齢者支援課) 森川祐子

配布資料

- ・松阪市歯と口腔の健康づくり推進協議会事項書
- ・委員名簿
- ・松阪市歯と口腔の健康づくり推進協議会規則
- ・令和3年度実績指標一覧
- ・令和3年度関係各課関係団体の取り組み実績一覧
- ・令和3年度フッ化物洗口事業実施状況について
- ・令和4年度歯科保健事業計画
- ・令和4年度フッ化物洗口事業計画
- ・令和4年度小学校フッ化物洗口事業実施計画
- ・第2次松阪市歯と口腔の健康づくり基本計画概要について
- ・松阪市民の健康づくりに関するアンケート調査
- ・松阪市健康づくりアンケート(中学生用)
- ・松阪市歯と口腔の健康づくり基本計画冊子
- ・第2次松阪市健康づくり計画冊子、ダイジェスト

議事要旨

1、挨拶（会長挨拶）

今、国でも、口の中の健康が健康寿命を延ばすということで、国民全員の歯科検診を行うというような方向に進んでおります。それに先立ち、松阪市の方でも、この歯と口腔の健康づくり推進協議会を基に、市民の健康を作っていきたいなと思いますので、どうかご協力をよろしくお願ひしたいと思ひます。

2、委員自己紹介（各委員から自己紹介）

3、協議事項

（1）令和3年度歯科保健事業実績報告について

事務局より

- ・令和3年度実績指標一覧
- ・令和3年度関係各課関係団体の取り組み実績一覧
- ・令和3年度フッ化物洗口事業実施状況について

について説明

（会長） 資料に関して何かご質問または付け加えることがあれば、挙手をお願ひしたいと思ひます。

（委員） 資料1の実績報告書のNo14 歯周病検診を受けてる割合が、平成26年度の、5.2%から昨年度は3.0%と、結構大きく、減少している。コロナの影響とかもあるかもしれないんですが、近隣の市町の状況等も含めて、おわかりでしたら、状況を教えていただけないでしょうか。

（事務局） ご指摘をいただきました歯周病検診の受診者数の減少につきましては、コロナ禍というのは、一つの要因にはなっておろうかと推察はいたします。

他市町の歯周病検診の実施率の確認をしますと、いずれの市町もやはり0.1ポイントが0.8ポイントほど、受診をされる方が下がっているような状況ではあるものの、受診率としては8%から15%程度ということで、松阪市と比較すると、受診をなされておられる方々の数が多いなというふうには受けとめております。その周知にあたって、いろいろと情報収集した中では、がん検診の通知とあわせて受診券通知を行っているというのがうちのスタイルなんですけれども、そこは少し分けて、別に歯周病検診のみの通知を送付しているというような状況が見受けられますので、そのあたり今後検討をしていかなければいけないかなというふうには受けとめております。

（委員） 他の市町では多いところだと15%ぐらいのところもある。ということしょう

か。それに比べるとやっぱりちょっと3%っていうのは少ないかなっていう感じがするので、他のがん検診等の受診券と一緒に歯周病検診の欄が、下の方に入ってるんで、見落としがちなのもあるかもしれない。周知の方法と、あとやっぱり今、10年に1回になって間隔が間、空き過ぎてるっていうのはやっぱりあるかもしれないので、受診率がもしあまり上がらないのであれば、受診間隔を短くして受診回数をふやすっていう形で、受診していただける人の数を増やすことが、今後の松阪市の、特に歯周病とかを減らしていくことに重要になってくるかなと思われまます。

(会長) 現在歯周病は国民病と言われるほど増えてきております。それにしては10年に1回の検診というのはやっぱりちょっと低いのかなという気はしないでもないですね。受診率15%の市町の対象年齢をもし、またわかれば、調べておいていただければなというふうに思っております。もう1点、歯周病検診だけではないが近隣の歯科医師会に呼びかけて、他の地域で受けても、受診できるように働きかけているところです。そうなれば、松阪市の市民の方がもし、伊勢市で受けられても、伊勢市の方が松阪市で受けられてもできるようにしていきたいなというふうに僕らも努力しますので、どうか、行政の方の方も一緒に努力していただければなというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

事務局より

・令和3年度フッ化物洗口事業実施状況について
説明

(会長) はい。ありがとうございます。今日ですね、この協議会に、小学校から3名の先生、幼稚園保育園から1名の先生が出席してもらっておりますので、各学校での取り組みとか、困ってるところがあれば、述べていただきたいと思えます。

(委員) 本校では、洗口液は、木曜日に輪番で職員が保健室で作成をしております。翌金曜日朝、各担任がボトルを教室に持っていき紙コップに10ccずつ、洗口液を入れ、また次のコップへ入れる。中にはフッ化物洗口を希望しない人もおりまして、水道水の入った紙コップを配っている。子どもたちは音楽に合わせて、ブクブクうがいを1分間行いまして、元の紙コップに吐き出し口をふいたティッシュをコップに入れております。感染予防のために、紙コップを支給していただいておりますので大変助かっております。以上です。

(委員) 本校は、金曜日の掃除終了後に行っています。掃除終了が1時45分です、1時45分から5分間でできたらということやってるんですが、なかなかその5

分間では、終えられなくて、ちょっと授業時間に食い込んでしまうというような状況があります。学年が上がってくると、早く済むんですが、なかなか、2年生1年生あたりは、5分っていうのはとてもちょっと難しいことでして、その部分を少し課題と思って、実施をしています。

(委員) 今年度は6月から実施を考えているという学校が多数あります。しかしながら、学校内でのコロナ感染や濃厚接触者などが出ている場合は実施を見合わせているという現状があります。しかしながらすべての学校が問題なく実施をしているというわけではなく、特別支援学級児童への配慮や、やっぱり人手が不足している中、実施をすることへの難しさもありながら模索をしています。感染症対策にやはり不安があり、どのような感染対策を行いながら実施をしているのかもし良い方法があればご助言の方いただきたいと思います。これから中学校への導入が始まってくると思うんですけども、中学校では、やはり小学校のように一斉指導でのフッ化物洗口を行うことは極めて難しいと感じており、実施の方法については、教育委員会と、よりよい方法を考えていきたいと思っております。以上です。ありがとうございます。

(委員) 本園では、5歳児におきましては昨年度12月からフッ化物洗口の方を行っております。4歳児につきましては、歯磨き指導をしたところですので、歯磨きをしっかり覚えてから、次、水うがいの方に移っていく予定です。5歳児につきましては、毎日給食後に、全員そろって椅子に座り行っております。中にはちょっとフッ素の微妙なおいが苦手なお子さんもあるみたいで、そのお子さんや、同意をもらってないお子さんにつきましては水で、同じように曲に合わせてうがいをしております。他の園の状況を聞きますと、やはりコロナウイルス感染症の関係で、中止している園があったり、再開したっていう園があります。本園につきましては、給食のときに机にパーテーションを立てておりまして、4人がけの机なんですけれども、そのパーテーションを置いたまま、行って、また水道のところでは混み合わないよう、順番に行くって言うふうなことで、感染予防に気をつけながら行っているところです。

(会長) はい。ありがとうございます。4名の先生方ありがとうございました。それに関して、何か回答があれば、よろしく願います。

(委員) 特に感染症対策につきまして、紙コップが配付されと思うんですけども、これグチュグチュしたあとです、直接洗面のシンクに、水道の受けに吐き出すのではなくて、そうっと飛沫が、飛ぶのが嫌だというお話だと思うので、持っておる紙コップの中に戻していただく。そして、高い位置じゃなしに、低い位置に、排水溝の近くに流していただくというような方向で（行う）。今全国的にそういう方法で実施されている。他の各県でもそのようにやって進んでおられる

ように思います。一度、そんな形でいかがでしょうか。

時間が足りない。これも先生のご指摘ありましたように確かに1年生2年生はそうなんだろうとは思いますが、それが学年が上がれば（慣れて速やかにできるようになる）、ということなのですが、いかがでしょうか。

(会長) 今の意見を参考にさせていただければと思います。よろしく申し上げます。他に、何か付け加えることはないでしょうか。なければ協議事項の(2)に移りたいと思います。協議事項(2)、令和4年度歯科保健事業計画について、事務局より説明をよろしく申し上げます。

(2) 令和4年度歯科保健事業計画について

事務局より

- ・令和4年度歯科保健事業計画
- ・令和4年度フッ化物洗口事業計画
- ・令和4年度小学校フッ化物洗口事業実施計画

について説明

(会長) 資料4、5、6の説明ありがとうございました。各小学校でのブラッシング指導、またはフッ化物洗口事業の補助として、三重県歯科衛生士会より、現在の状況を説明をお願いします。

(委員) ありがとうございます。フッ化物洗口事業では、コロナ禍の中で、感染予防の点で、どうしてもブラッシング指導等がネックになるという部分があります。しかしながら試行錯誤をしてさせていただきました。フッ素についての説明やうがい指導は実施できたと感じております。

(会長) このフッ化物洗口推進事業は三重県が推進している三重県の事業ですので、アドバイザーより事業の説明、現在の取り組み、それから他の歯科口腔全般に関して何か、我々にご教授願うことあればご説明よろしく申し上げます。

(アドバイザー) 皆さん、健康推進課の奥野です。フッ化物洗口推進事業は、県として推進しており、その中で市町さんに取り組んでいただいている事業と認識しております。初期のフッ化物洗口を導入される施設への、物品の支給や、人材の派遣、3年間無償で洗口剤を提供するという事業を、毎年させていただいております。これらについては県が主となり行っておりますけれども、その後継続していただいている事業につきましては、市町さんの方でしていただいているものと認識しております。松阪市さんは、平成30年度から始められ、今も継続されていることに本当に感謝しております。先進的に進めていただいておりますので、他の市町さんも松阪市さんにならって実施されています。これからも、松阪市さんの

工夫されていることを、私の方からも他の市町さんへ共有して、横展開していきたいと思っております。今、やはり新型コロナウイルスの感染症対策をどうしていくかという議論が本当に尽きないと思っております。感染者や濃厚接触者がでますと、事業を見合わせたり、一時的に中断したりしますが、このような状況でも紙コップを市から学校へ支給し可能な限りで事業継続しているということを伺っております。そのような対応をしていただけると、子どもたちの歯と口の健康が守られていくと認識しております。実施時間のお話が出ました。今フッ化物洗口が18校でされてきて、今年度も6校プラス2校増えるというお話でしたが、ほとんどの学校で実施時間が足りてないのか、もしくは一部の学校で実施時間が足りてないのかという点がわかりませんでした。皆さんで、どういうところで時間が足りてないのかということ、またうまく実施できているところは、どのように実施しているのかということ、検証されると良いのではないかなと思えました。もしわかれば教えていただきたいと思っております。また、松阪市さんは他の世代、例えば妊婦の歯科健康診査についても、受診率は非常に高く素晴らしいと思えます。歯周病検診につきましては、ご指摘もありましたが、今後どのように受診率を上げていくのか、そして、現在はがん検診と一緒に通知をしているというお話もありましたが、どのようにしていくとよいかという点について、今後一緒に考えていければよいと思っております。後期高齢者についても、広域連合で歯科健康診査をしていただいていますし、介護予防への関心を高めていただくことが非常に重要です。ご本人たちへどのように関心を持っていただくかということが非常に重要であると思えます。それはすべての年代で繋がりますので、成人期、妊娠期、その前をたどれば、学齢期、乳幼児期に繋がっていきますので、ぜひこういった事業が今後も継続されるようにしていただきたいと思っております。また、障がい児者につきましては、市での事業展開が非常に難しいと感じておりますが、歯ートネットの情報を市民の方に啓発していただいたり、歯科医師の先生方も障がい児者の方を診られるような体制を作っていただいたりと、何年か前にもこの会議でお聞かせいただきました。ぜひ、障がい児者や要介護者の方へも、きちんと歯科保健医療サービスがいきわたるように、これからも取り組んでいただきたいと思っております。最後に、国民皆歯科健康診査は、皆さんもご存知の通り、国の骨太の方針で示されたものです。体制についての具体的な議論は、これから始まっていきます。その制度の実現を目指していくうえで、政府と厚生労働省が主になって、話を詰めていくと思っております。毎年、経済財政運営と改革の基本方針というものが大体6月ごろに打ち出されますが、歯科の記述が、今年度は大きく変わりました。その点からも、今後の対策がどのように求められていくのかと思っております。国民皆歯科健診以外にも、様々なICT活用し

た歯科保健医療の構築の強化もされており、おそらく歯科関係は、まだまだ今後変わっていくようです。松阪市さんは非常にアンテナが高いので、そういった点についても、ぜひ国の動きを見ながら、事業を進めていっていただきたいと思っています。以上です。

(会長) ありがとうございます。

(委員) 資料6について、提案がございます。令和5年度にフッ化物洗口が開始される小学校ですが、この中で、小規模校と大規模校がなっていますが、過去にも、非常に全校数が少なかったところは、2学年一緒に行うとか、或いはいつそのこと全校一緒になってこぞって行うというようなことも非常に有効であったと思います。その点について何かお考えありましたら、お聞きしたいと思います。それからもう一点、ゆくゆく中学校でも、フッ化物洗口を実施していただくようになっております。これは市町の事業でございますので、実績をどのように表していくかということ、そろそろ検討していただくと非常にいいと思います。全国的に虫歯があるかないのかというようなことを表すDMFTという指標がございます。その数値によれば、全国のどのレベルにいるのか、どれだけの子どもの口腔保健が向上しているのかという指標になり、明らかに市町の実績になると思います。小学生だけにフッ化物洗口をするんじゃないで、ベビーから高齢者まで、全部課題があるわけです。その中で、その人の一生の中において一番虫歯になるときが、幼稚園小学校の時です。そのときカバーしてあげたら、もう成人になってから虫歯知らずに、今までそんな苦しいことなくていけましたよということになる、それを目指した取り組みです。だから小学校で今フッ化物洗口を一生懸命やってもらうといいよねという位置付けですので、そういった点からも、小学校小規模校は、全校で行うとか、或いは2学年一緒におこなうとかいうような提案はいかがでしょうか。

(会長) 質問に関しては行政の方から何かあればお願いします。

(事務局) はい。大規模校とか小規模校とかそれぞれ各学校松阪市の場合は、資料6の通りですね、R5年度実施予定の大規模小学校でしたら700人規模、小規模小学校でしたら48人規模ですけども、今のところはやっぱり教育委員会としまして早く進んでいけばそれはそれに越したことはございませんが、各学校の実状、例年令和3年2年、令和元年と過去を見てですね、段階的に踏んでいくことによって、教職員の方も把握しやすいですし、子どもたちもスムーズに動きやすいということがありますので、そのところは検討課題ですけども、段階的に踏んでいきたいなと思ってます。今後中学校も令和5年にやっていく上ですね、やはり中学校の時に例えば校区でですね、やってる学校、例えば、A中学校がBCDの小学校、それぞれやっているというのであればスムーズに進みやすいですけど

も、BCD、どちらかやってなかったらですね、中学校としてもやりにくいと思いますので、いわゆる、学校の現場としましてはやっぱり段階を踏んでですね、やはり、確実にというか、丁寧にしていききたいと考えております。

(会長) ありがとうございます。現場の先生方とよく話ししていただいて、進めていっていただければなというふうに思います。

(事務局) はい。ありがとうございます。評価について、DMFT指数というものですが、でも、まず、DMF指数というものについては、集団における、永久歯列のう歯の罹患状況を表す指数ということでよろしいでしょうか。Dが未処置のう蝕歯、Mが喪失歯Fがう蝕が原因で処置された歯という認識で、それぞれの歯の合計が、全体の被験者にどのぐらいの割合になるのかっていうのも、指数としてどうなのかっていうふうにおっしゃっていただいたと思います。先ほど段階的に進めていく中で、これも歯科医師会の先生方や、衛生士会の先生方、それから現場の先生方のご協力をいただいて、松阪市で順調に広がってきている中で、当然その成果はっていうところは、現場や保護者さんも、その辺りのところは見ていきたいというふうに思われる部分もあるでしょうし、やっていく中ではそれをお示しできるっていう部分が必要になってこようかと思います。今後この後の事項でも、計画のご説明を差し上げるのですけれども、そのあたりとも関連しながら、学校ですとか、保育園幼稚園の歯科健診の結果を共有していく中で、評価できるようなことっていうのを考えていけるといいのかなというふうには受けとめております。委員よろしかったでしょうか。

(委員) はい。

(会長) それではですね協議事項の(3)第2次歯と口腔の健康づくりの基本計画策定について、事務局の方よりお願いします。

(3) 「第2次歯と口腔の健康づくり基本計画策定」について
事務局より

- ・第2次松阪市歯と口腔の健康づくり基本計画概要について
- ・松阪市民の健康づくりに関するアンケート調査
- ・松阪市健康づくりアンケート（中学生用）
について説明

(会長) 今の計画策定及び、市民アンケートに関しまして何か質問、ご意見があれば、挙手をお願いしたいと思います。

無いようですので、よろしく進めていただきたいと思います。協議事項がすべて終わりました。少し時間がありますので、参加していただいた皆さんから何か

一言ずついただければと思います。

(副会長) はい。失礼します。昨年度のことなんですけれども、三重県歯科医師会のフッ化物洗口動画の作成に協力させていただきました。新型コロナウイルスの感染拡大に伴いまして、年度内に作成が完了するのかなあ、と非常に心配していたところなんですけれども、無事に完成してほっとしております。動画の方では、虫歯予防のポイントであったり、フッ化物洗口の効果であったり、フッ化物洗口の手順、フッ化物の安全性がわかりやすく紹介されているので、少しコマーシャルさせていただきましたけれども、三重県歯科医師会のホームページの方からご覧いただけるので是非ご覧いただけたらなという風に思います。

(会長) DVD 作成に関しまして本当にご協力いただきましてありがとうございます。三重県歯科医師会のホームページの方から見れるようになっております。

(アドバイザー) 昨年度は本当に大変お世話になりました。かなりご無理を聞いていただいて、本当に申し訳なく思っているんですけれども、今PRいただけて本当に感謝しております。動画を作成するに当たりましては、松阪市さんがそれより前に作られてまして、実は同じ時期にこちらも作るってようなことを検討が始まっていたんですけれども、コロナがありまして、時期がすごくずれ込んでしまったんです。本来であればもっと早く作って、各市町さんの方に使っていただけるようにしたかったんですけれども、今となっても非常にいいものができ上がったので、かなり満足しているんですけれども、松阪市さんが作られてる内容って本当に素晴らしいなと思ってまして、そちらを参考にされてる市町さんももちろんあると思うんですけれども、県で作らせていただいたのは、市町さんの方でも始めていただく、その前の学習に使っていただくのも可能ですし、もともと始めたところの保護者の説明会や異動されてきた教職員の方への説明会などにも使っていただけるようなものになってますので、そういった形で、本当に多くの方に、使っていただけるようにと思って県でも作らせていただきました。こちらの方からは松阪市さんの動画も実はPRさせていただいておりますので、こちらの2本を使っていただいて、いろんな市町さんに活用していただけたらと思っておりますので、また機会がありましたら先生方も一度ご覧になっていただけたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(委員) 日頃より松阪市の子どもたちのためにご尽力いただきましてありがとうございます。私は、2年前にもこちらの会議に参加させてもらったんですけれども、この取り組みのおかげで、フッ化物に関して保護者の方からの認知度は随分上がってきたのかなというふうに感じています。自分自身は中学生の子どもを持つ親ですので、実際自分自身はそのフッ化物洗口に関して携わる機会がなかったんですけれども、またやっぱり改めて感じるのが、子どもたちのこの口腔環境という

のが、先ほど、長い人生の中で、幼少期にむし歯の罹患率が高いから、ここに集中的に行っていくことがって話があったように、どの年代をとっても、必ず考えていかなければいけない課題で、そう考えていくと、その家庭の果たす役割ってというのは本当に大きいなど。今回改めて感じたんですが、子どもから一緒に夏休みとかを過ごしていると、私の歯の磨き方に関して、娘や息子から指導や助言といいますか、もらうことがあるぐらい、そんな短くてどうするのと怒られるぐらい。これをなぜ言えるかという、もちろん歯医者さんに連れていく度に指導いただくということももちろんあるんですが、おそらく幼稚園小学校中学校という中で、先生方からもそういったご指導というのを絶え間なくいただいでることで、子どもたちのその生活習慣であったり、やっぱり歯と口腔に関する意識というのは高まっているんだなど、大人自身が反省する日々でございます。やっぱりそう思っていくと、その家庭の方で、こういったことに関する関心というのが、もしかしたらもう少し高まれば、もっともっとその口腔環境というのは良くなっていくんじゃないかなと。ちっちゃい頃からそういうことに関心がある子どもたちが大人になっていけば、先ほどもあったように歯周病っていうところに関して言っても、早期にアプローチができるんじゃないかなということで、改めていろいろ考えることができる時間になりました。今日小学校の方で、図書ボランティアへ朝行っていた時に、子どもたちが、歯の本であったり健康の本であったりっていうのを読んでたりする場面をパッと見たときに、いろんな場面で、図書室とかに、そういう歯（の健康）を啓発するようなコーナーを作ってみたりとか、どんなことであってもそうやって地域が関わることで、一緒になって地域ぐるみで考えていける時間というのはとらせてもらえるんじゃないかなと、また子どもたちを中心に啓発していくことで、松阪市全体のそういった啓発活動にも繋がるんだなどということを感じたので、今日本当にすごく貴重な時間を持たせていただいて教えてもらうことばかりで、こちらから情報発信することがなくて申し訳ないですが、これを自分だけでとどめておかずしっかりと発信して行って、松阪市の方が今お褒めいただいたように、先進地・先進市ということで進んでいけるように取り組んでいきたいなと思いましたので、またいろいろご助言等お借りいたしまして、子どもたちの未来のためにつなげていけたらと思っておりますので、引き続きどうぞよろしく願いいたします。

(委員) 今日の会議を聴かせてせていただいたり、またこの実績の指標などを見せていただいでる中で、地道に先生方、それから歯科衛生士さん、それから市、県を合わせてですね、ずっと取り組んできていただいた成果、地道なこの取り組みの成果は、やはりこの数値に表れてきているのかなと思って、大変感心しながら、すごいなど。またこれが、どんどん広がっていくことを望みたいなど思いながら

聞かせていただきました。そして、やはり食べていくために、私たちの体を作るためには、口から物を入れていかなければいけないわけですが、その一番初めが、やはりしっかりした、嚙む力を持つということが第一歩だと思います。そのために、良い歯を持っていくというそういう習慣をつけていくっていうこと、これは、とても大事なことだと思います。バランスのいい食、何を食べるか、それからまた、いい歯をつくっていく材料としてどういうものを提供していくか、それから家庭も、どういう食生活が大事かというところ、ただ歯を磨いていればいいというだけではなくって、基本的なところ、それもですね、やはり幼少期からの食習慣、この形成が大事だと思います。ですので、これは、(歯科医師の)先生方や、それから学校の先生方、それから、養護教諭の方、それから栄養教諭の方、それから歯科衛生士さんや、PTA、みんながですね、多職種が連携しながら、進めていく必要があるのかなというふうに改めて思っています。そして、私たちのできることで、また協力させていただきたいなと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(委員) 先ほど、小学校の(フッ化物洗口の)時間が授業時間に食い込んでしまうということをお話しさせていただいたんですが、中学校でも実施ということで、中学校は、より授業の時間がしっかりと担当の先生で割り振られていて、なかなか授業の時間に組み込むということはできないということとか、生徒さんが多感な時期ですので、紙コップに(水を)吐くっていうことをためらうんじゃないかとか、そういったこともやっぱり気になりますので、実施していく中学校と、しっかりと、そのあたりも含めて協議していただければと思っています。

(委員) 先ほどは、感染症対策についてもいろいろ教えていただきましてありがとうございます。その中で(フッ化物洗口を実施する)時間がないということも触れていただきまして、慣れていく中で実施する、流れがスムーズになるっていうのは本当に委員の言う通りだと思います。なぜ小学校が1年生でこんなに時間がかかっているかっていうのは、やっぱり幼稚園・保育園で経験をしていない子がもう小学校1年生で実施をしなくてはいけない状況になっているというところはかなり大きいと思います。保育園・幼稚園で(フッ化物洗口の)実施の経験があると、「これ、幼稚園でやった」と言って、わりとすっと入ってくんですけど、やってない子については「これ何、これすごい臭いけど。気持ち悪いけど」と言ってなかなか進まない現状というのがあります。やっぱり時間がかかってくるというところもありますし、人手が足りないっていうところで、1人担任の方が(洗口液を)入れて同時に私の方で、またコップ渡すのに回ってとかいろいろ工夫はしているんですけども、他の学年も一緒に行ったらどうかとか、全学年で実施したらどうかという意見もあるんですけども、うちの学校でしたら本当にそん

な場所ありませんし、皆さん、他の学年も集まってというそんな時間も、本当にまた長くかかってくるし、なかなかそこも難しい状況です。これから中学校が導入の方へ進めていく中で、小学校6年生が全員フッ化物洗口を、実施を経験している、その中で中学校に上がっていくということが一番理想ではあると思いますので、どうぞ協議の方をよろしく願いいたします。

(委員) 保育園では0歳児からお子さんを預かっておりまして、歯の生え始めからずっとみさせてもらってます。その中でやっぱり小さい年齢でも、虫歯の初期症状があるのかなというふうなお子さんもあつたりとかして、そうするとやはり食べることとか、遊ぶこととかにも影響が出てくるのかなというところ辺では、小さいうちから、保護者の方への啓発っていうのはすごく大事ななと思います。5歳になってきますと、友だちと一緒に楽しく、歯磨きやフッ化物洗口を行っている姿もありますので、引き続き丁寧に指導していきたいと思っております。

(委員) 本日は本当にありがとうございました。熱心なご協議いただきました。私の方からは1点事務局の方から最後に挙げております第2次松阪市歯と口腔の健康づくり計画、あわせて第3次健康づくり計画、これにつきまして引き続き、様々な分野からご指導いただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(委員) 口の健康等機能を保つために、今後も松阪市さんのお力になればなど思っております。また、高齢期の方では、今年度から新しい事業で松阪市さんの一体的な実施ということで重症化予防と、生活機能の改善に繋がるような、多職種の方と連携させていただいて、関わらせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(委員) 薬剤師会としても、今日の内容を持ち帰らせていただきまして、乳幼児期とか、学齢期のお子様にも、PRできるように、お伝えさせていただきますね。私も明日から、子どもさんとかいらっしゃったら、薬の説明の後に少しPRさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(委員) フッ化物洗口の方も、皆様のご尽力のおかげで、幼稚園小学校の方は大分進んできておりまして、今後、中学生の方についていう段階になってきているかと思えますので、先ほど松阪市さんの方からアンケートの方をご紹介いただいたんですが、この中学校用のアンケートの中に、今回お願いして、問8のところに、フッ化物、フッ化ナトリウムについて、ぶくぶくうがいをするフッ化物洗口知ってますかっていうのを一つ。加えていただきました。小学校とかで、もう経験をされてる方はご存知かもしれないんですが、そうでない人もいると思うので、どのくらい、中学校のところで、これらのことを認知しているかというのを確認しないと、知らない人には、ここでこういう言葉を出すことによって、ちょっと興味を

持ってもらえるのではないかということで、今回入れさせてもらいました。特に幼稚園小学校中学校という流れを作ってその子らが、そういうフッ化物洗口とか虫歯予防のことを経験した知識を得た子どもさんが大人になったとき、さらにはその、子たちが子どもを持ったときに子どもに、自分たちの知識や経験を伝えてもらって、将来的に松阪市、前回はそういうお口への健康づくりに対する関心を持った人が増えてくれればいいかなと思います。

(委員) フッ化物洗口も、コロナによりまして、いろいろ不安な部分が出てきたと思うんですけども、実は、フッ化物洗口は、虫歯予防というのが第一義でございまして、実はぶくぶくしてるということによって、口腔周囲機能を非常に向上させるという効果があります。唇の力、筋肉ほっぺたの力、ペロの力、ここら辺が正常に保たれることによって、或いは昨今多ございます歯並び不正というようなことについての対応もできるというようなこと。それがもっと小さいときから、行われれば、フッ化物洗口に小さい時という意味ではなしで他の手段でもですよ、もう少しちょっといいことがたくさん起こると違うのかな。マスク生活の中で、実は学童幼児のお口の中、大分悪くなってきております。実は、マスクの下で口呼吸してるからです。口がポカンと開いてるので、顎の機能とかいうものも非常に弱くなっていきます。その中で、いろいろ前歯とか他にくっついた汚れというのなかなか流れていかないということもあります。実は、よく子どもたち見ると、少し首を前に出した姿勢の悪さとともに口をぽかんと開いている。それがもう口呼吸という形で常態化しておる。ぶくぶくうがいの効用、歯科医師会の方ではそういったことを向上させるために、食育というようなことも、以前から言われてるわけですけども、栄養食育と歯科医師会のどういう形のどのような形態のものを食べさせて機能、進めていくのかと。将来、学校とも、連携させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

(会長) ありがとうございます。本当に今日は協力ありがとうございました。これで協議事項が終わりましたので、何か最後にあれば、これだけは言っておきたいということがあれば、ないですか。よろしいですか。はい。それではこれで協議を終わりたいと思います。事務局よろしく申し上げます。

(事務局) 会長、皆様、ありがとうございます。本日、委員からいただきました大変貴重なご意見を基に、私ども市といたしましても引き続き、歯と口腔の健康づくりを推進していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。次回の会議につきまして、令和5年の2月頃を目途にしています。その節はよろしくお願いいたします。それでは、これをもちまして、令和4年度松阪市歯と口腔の健康づくり推進協議会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。

〈14:55 終了〉